

Depuis queとmaintenant queについて

阪上 りり子

0. はじめに

フランス語において時間的状況補語を表すためによく用いられるものとして、関係辞と名詞や名詞グループ・不定法表現・節表現との組み合わせという表現形式がある。この表現形式を構成する関係辞にはさまざまなものがあるが、そのなかでも*depuis*は、ある事柄の起点や期間を表すために用いられる。この関係辞を伴う表現は、それが登場する発話において動詞時称形との共起関係に関与し、さまざまな意味効果をもつということは、既に小石(1984, 1986)の指摘にある。しかし、*depuis*の機能に関してはまだ不明な点も多く、佐藤(2001, 2002)が再検討していることなどもそれを示していると言える。

本稿では、*depuis*の機能をより明らかにしていくためのひとつのころみとして、この関係辞が節表現を伴う場合、すなわち*depuis que*が登場する発話を検討していく。発話例の解釈には、それをとりまく文脈を考慮する必要があることは言うまでもない。節表現の検討を研究の入り口とした理由は、上にあげた論考において複文の例はあまり取り上げられていないことと、複文には少なくとも二つの密接した事柄の関係が述べられており、関係辞と名詞や名詞グループ表現にくらべて、それぞれの事柄の解釈のためのより多くの手がかりを閉じた範囲にもつ比較的小さな単位と考えられることにある。

また、上にあげた先行研究でも指摘されているように*depuis*には、それがもつ*déictique*な性質から、広い意味での現在のことを表す事柄の表現に用いられるときに複雑さが観察される。そこで、*déictique*としては代表的な*maintenant*と組み合わせさせて状況補語節を構成する*maintenant que*を含む発話と比較しながら検討していく。

以下では、発話例の出典および分析方法を1. で示し、2. で*depuis que*を含む表現を、3. で*maintenant que*を含む表現をそれぞれ検討し、4. で比較をおこなうという順ですすめる。

1. コーパスと分析方法

発話例の採集には、筆者が以前おこなった時況節を含む発話に関する研究Sakagami(1997)のコーパスを利用した。これは、一般的な文法書、時況節を扱った研究書、新聞・雑誌、*Robert électronique*および*Frantext*から収集した、主に書きことばの5589例からなる。今回は、そのなかから*depuis que*と*maintenant que*を含み、現在という時間枠の事柄

を表す時称形を伴うもの、すなわち直説法の現在形と複合過去形からなる組み合わせのものを抽出した。時況節が後置か前置かが解釈上の重要なてがかりになることは、阪上(1994)やSakagami(1997)で指摘した通りである。今回もそれにしたがって分析対象例を二つに分類した。それをまとめたものが表1である。

表1 分析対象の発話

			depuis que	maintenant que
PC	c	PR	11	0
PR	c	PC	34	2
PR	c	PR	25	9
c	PC, PR		32	18
c	PR, PC		15	1
c	PR, PR		23	28

c : 接続詞 (位置は、時況節が後置か前置かを示す)

PR: 直説法現在形 PC: 直説法複合過去形

maintenant queを含む発話例の方が少ないが、コーパス全体をみても、maintenant queの頻度はdepuis queの三分の一弱程度である。例が採取でき次第、分析対象に加えることを随時平行しておこなうこととし、本稿では表1の例を検討する。

それぞれの例を解釈していくには、時称形の意味価値(以下、価値と表記する)の読み取りが不可欠である。そのための方法として、J.-P. Desclésが提唱する文法モデル、適用認知文法の記述方式を採用し、それにしたがってインターヴァル図式で表していく¹⁾。

2. depuis que

2.1. 時況節後置の場合

2.1.1. PC depuis que PR

この組み合わせの発話について読み取れた二つの事柄の関係は四種類ある。例とその図式をみていこう。

- (1) Elle est devenue indispensable à l'entretien régulier du vignoble *depuis que* les replantations s'accomplissent selon une périodicité plus élevée, tous les trente ans en moyenne. (Levadoux, L., *La Vigne et sa Culture*, 1961, p.53, in Frantext)

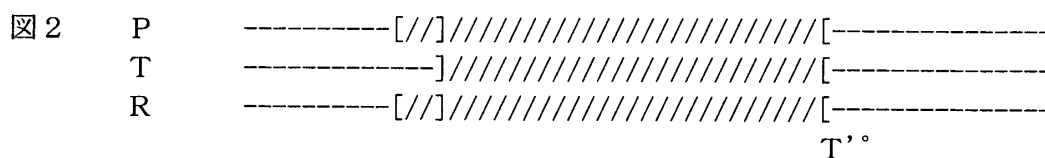


主節²⁾の複合過去形の価値は「結果状態」で、時況節は現在進行中の背景の事柄「プロセス」を示し、それが起こったのは主節の「結果状態」を生む「イベント」と同時で、二つの事柄はともにT'°におよぶと解釈できる。

次の例で上と異なっているのは時況節の価値が「状態」であることである。(1)と同じように、時況節は主節と同時で背景となっている事柄を表す。

(2) L'introduction à Kierkegaard m'a bouleversé comme peu de livres l'ont fait depuis que je suis au monde. (Green, J., *Journal*, t. 5, 1950, p.197, in *ibid.*)

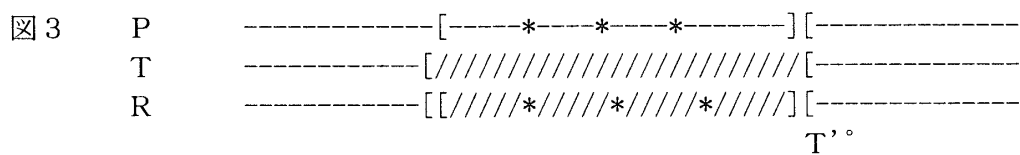
(3) Moi, mes patrons me tarabustaient pour que j'accepte enfin de partir en congé. Je n'en ai pas pris depuis que je suis en fonction. (Benoit, P., *Alberte*, VII, in *Robert électronique*)



「結果状態」とは、ある「イベント」が起こったあと必然的に生まれるそれ以前とは異なる状態のことであるが、(2)のように主節の「状態」の内容があまりに広い時空間をカバーするものの場合、図2はこの発話の節どうしの意味関係を正確に表していない印象を与える可能性がある。時況節の左境界をより左に置いた図式の方が望ましいかも知れない。しかし、(3)のように休暇を取らない決断をした結果、現在まで休暇をとっていない状態が持続し、それが現在の職について以来だという関係は上の図式が正確に表している。インターヴァル図式は、時・アスペクトの質的關係を表すものであるから、このタイプの関係、すなわち時況節の価値が「結果状態」で主節のそれが「状態」の場合は、このように図式することにする。

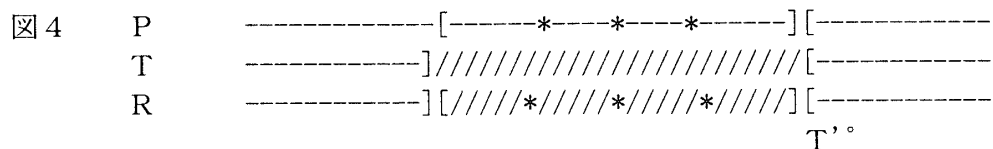
次に観察できたのは、主節が複数生起を意味する「反復イベント」の価値で、時況節はその「反復イベント」の起こり始めと同時進行している別の事柄「プロセス」を表すという関係である。

(4) Le savant biologiste, l'éminent historien en effet estime "pour la première fois avoir fait une tentative sérieuse d'énumérer toutes sortes de faits méta-para-extra-normaux qui ont été enregistrés depuis que l'humanité possède une histoire de ce genre d'événements". (Amadou, R., *La Parapsychologie*, 1954, p.37, in *Frantext*)



主節で表されている事柄が最初に起きた瞬間が時況節のそれが始まった時と一致するかどうかをこれだけの文脈から特定することはできないが、時況節は主節の事柄の起点とそれが現在までおよぶ期間にわたるものであることを表す。次の例は、(4) とほぼ同様の関係を示すが、時況節の価値が「状態」である点が異なる。

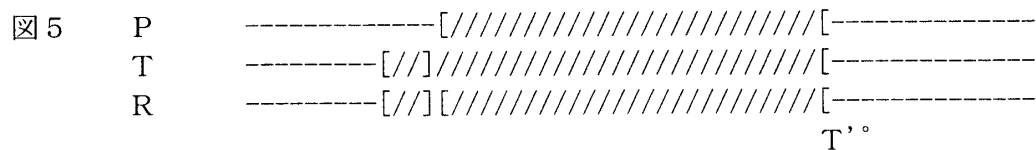
(5) Mais j'ai revu le film plusieurs fois, *depuis que* je suis à Paris, et je sais bien que pour l'essentiel, au premier choc, rien ne m'avait échappé. (Japrisot, S., *La Dame dans l'Auto*, 1966, p.24, *in ibid.*)



2.1.2. PR depuis que PC

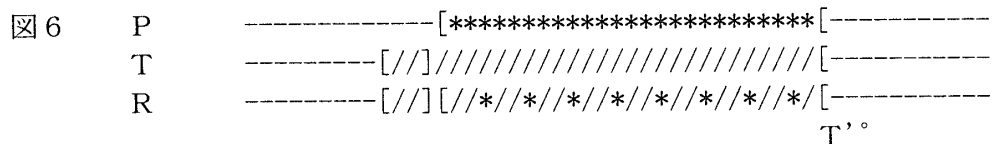
この時称形の組み合わせで確認できた関係は五種類ある。順にみていこう。

(6) La physique du milieu interplanétaire *commence* à être moins mal connue *depuis qu'on en a entrepris* l'étude directe au moyen de sondes spatiales. (Schatzman, E., *Astrophysique*, 1963, p.142, *in ibid.*)



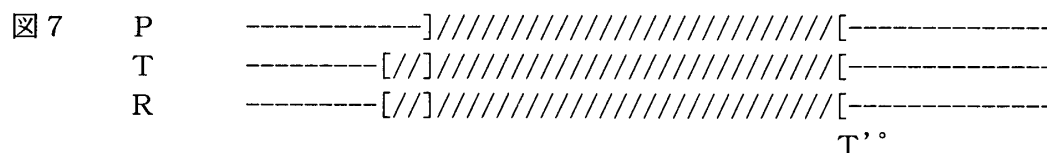
このように、時況節の価値が「結果状態」の場合、それを生み出す「イベント」の生起が主節の事柄の起点となっていて、その事柄が持続している期間が今におよぶという関係を読み取ることができる。このタイプのヴァリエーションと言えるのが次の例である。主節の時称形は「現在の習慣」³⁾の価値である。

(7) Je ne *danse plus depuis que* j'ai perdu ma femme, répondit le laboureur. (Sande, G., *in Wagner et Pinchon*, p.583)



次は主節の事柄が「状態」である例で、ほぼ(6)に準じる関係を表す。

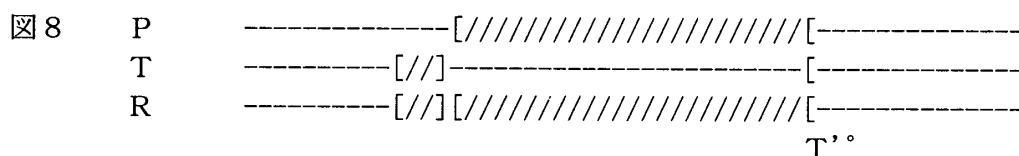
(8) Mais le problème *est* encore compliqué *depuis que* l'on a pu étudier récemment les rapports étroits qui unissent l'hypophyse avec le système nerveux sous-jacent. (*Encyclopédie Médicale Quillet*, 1965, p.489, *in* Frantext)



主節の「状態」の開始は、時況節の「結果状態」を生む「イベント」が起こって以来のことであるから、2.1.1.の(3)のような関係が読み取れる。

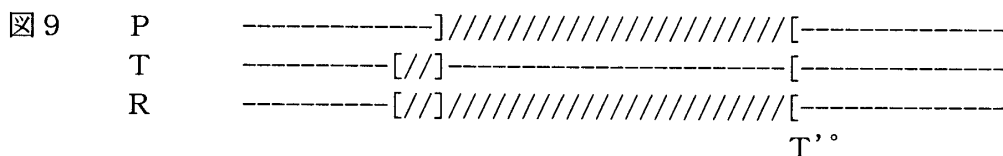
「イベント」の生起は、時空間におけるその前後の境界を構成するので、必然的にその後の「状態」を生み出す。しかし、複合過去形の価値を解釈していくとき、「結果状態」を強く想起させるのではなく、むしろ「イベント」のみを表していると読み取れる場合がある。次のような例が該当する。

(9) (à Gil :) Gil, je *sens* de l'affection pour toi, *depuis que* nous avons parlé ensemble, et je veux que nous soyons amis. (Camus, A., *La Dévotion à la Croix Adapt.*, 1953, p.575, *in* *ibid.*)



次のように主節の価値が「状態」の例も多い。

(10) En Allemagne, et celui-ci *est* "plus protestant que jamais *depuis qu'il a vu* le mal que fait l'église". (Green. J., *Journal*, t. 5, 1950, p.101, *in* *ibid.*)



複合過去形の価値が「イベント」と解釈できるのは、動詞の意味が一度で完結してしまうような動作を表すもので、そのような意味を持つ動詞と組み合わせさせた*depuis que*節は主節の事柄の起点を表す。

2.1.3. PR depuis que PR

この組み合わせの発話で観察できた関係を正確に分類すると五種類ある。現在形に読み取れた価値は「プロセス」「現在の習慣」「状態」の三つである。これらの価値の組み合わせで確認できたのは、二つとも「プロセス」か「状態」、一方が「プロセス」で他方が「状態」、一方が「現在の習慣」で他方が「プロセス」である。二つの価値が同じでない場合も、節どうしの関係にとくに際立った差はみうけられない。すべてに共通して、時況節は主節の事柄の起点とそれが現在にまでおよぶ期間、およびそれと同時進行の「状態」や「プロセス」を示す役割をしている。(11)や(12)のように二つの価値が同じ場合、全く同時の関係を表すので、図式は一つの価値の図式と同じものになる。また、(13)や(14)のように別の価値どうしの場合は、上でみたもの(図5や図6)と同様なので、ここではそれぞれの例をあげるにとどめる。

主節と時況節がともに「プロセス」

- (11) Il me semble que je *désire* tout moins âprement, *depuis que s'écarte* de moi cette félicité que je me promettais d'une communinon parfaite avec elle. (Gide, A., *Et Nunc Manet In Te*, 1951, p.1153, *in ibid.*)

主節と時況節がともに「状態」

- (12) OÙ vous *avez rendez-vous* avec nous *depuis que vous êtes* ici. (Gracq, J., *Le Rivage des Syrtes*, 1951, p.259, *in ibid.*)

主節が「現在の習慣」で時況節が「状態」

- (13) On devrait penser à la guerre comme à l'inévitable tragédie personnelle qui nous *attend* tous *depuis que nous sommes* au monde. (Green, J., *Journal*, t. 5, 1950, pp.312-313, *in ibid.*)

主節が「プロセス」で時況節が「状態」

- (14) Il me semble que le mien me *condamne* tous les jours *depuis que je suis* à l'université, et cette parole me répond. (Green, J., *Moira*, 1950, p.190, *in ibid.*)

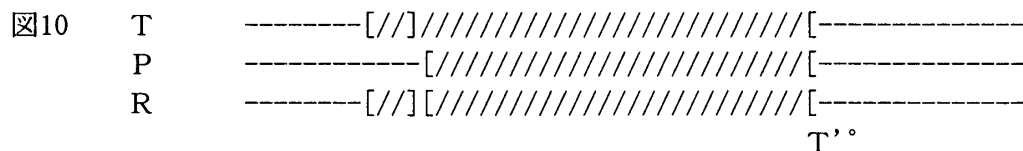
2.2. 時況節前置の場合

2.2.1. depuis que PC, PR

この節順と組み合わせで観察できた関係は三種類ある。まず、時況節が「結果状態」で主節が「プロセス」の場合をみよう。

- (15) Mais *depuis que* l'URSS *a réduit* considérablement la marge de supériorité atomique des Etats-Unis, alors, américains, alliés atlantiques et soviets ne

cessent, en public ou en privé, officiellement ou officieusement, de chercher à obtenir quelques éclaircissements. (Billotte, P., Considérations stratégiques, 1957, p.4205, in ibid.)

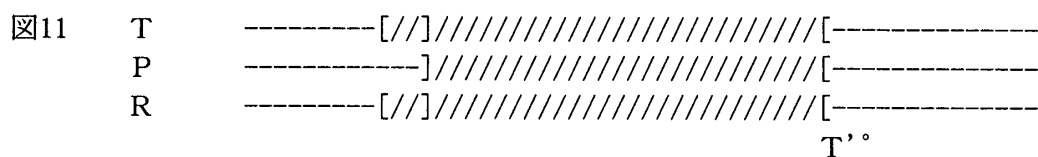


阪上(1993)で指摘したが、解釈とは左から右へ、つまりことばが目に入った順という一方向でなされるのが基本である。発話の冒頭に置かれている時の状況補語は、それ以下全体を位置づける枠組みを提示する機能をもつ。前置された*depuis que*節中の複合過去形の価値は、すべて「結果状態」であった。時況節は、主節で示される事柄の起点となる「イベント」および、それが生み出す「結果状態」を示し、主節の事柄が生起するのは現在にまでおよぶ期間であることを表す。時況節の複合過去形が、単に「イベント」としてしか読み取れない場合をしいてあげると次の(16)が該当するかも知れないが、父親がその結婚のことを話題にしてから以後という期間が主節の事柄の時間的枠組みとして与えられていると解釈する方が自然であろう。

(16) - *depuis que mon père m'a parlé de ce mariage, j'ai des moments de folie.*
 (Aymé, M., *Clérambard*, 1950, pp.163-164, *in ibid.*)

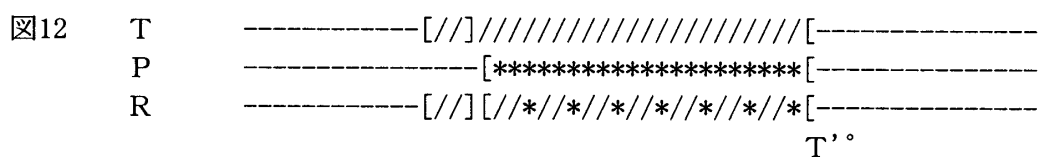
下は、主節の価値が「状態」の例である。

(17) *Depuis que j'ai pris cette décision, j'ai tant de choses à te dire!* (Montherlant, H. De, *La Ville et le Prince ...*, 1951, p.871, *in ibid.*)



次の例は主節の価値が「現在の習慣」であるが、節どうしの関係としては、(15)のヴァリアントと言える。

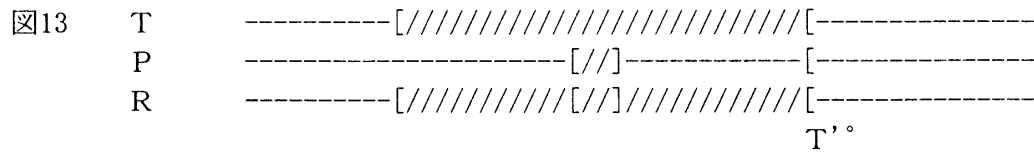
(18) *Tous les mois, depuis qu'on s'est quittés, il m'envoie un mandat.* (Le Crézio, J.-M. G., *Le Déluge*, 1966, p.144, *in ibid.*)



2.2.2. depuis que PR, PC

この組み合わせの発話に観察できた関係は四種類ある。はじめにみるのは、時況節の現在形の価値が「プロセス」である事柄の開始を示し、それが始まってから現在におよぶ期間のなかで主節の事柄、ある「イベント」が生起したことを表す関係である。

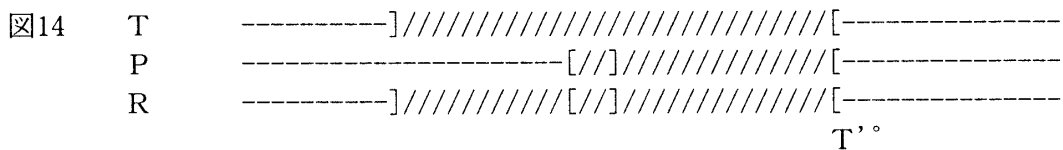
(19) *Depuis que vous connaissez Mlle Villancy, vous avez doublé le nombre de vos cravates ...* (Montherlant, H. De, *Celles qu'on prend... , 1950, p.785, in ibid.*)



主節の「イベント」が時況節の「プロセス」の開始の直後に起こったと読み取れる手がかりがないので、二つの事柄の開始を接近させた図式になってはいないが、インターヴアル図式は質的關係を表すものなので、他の例の場合も考慮し、このように表すことにする。また、この例の複合過去形の価値は「結果状態」とも読み取れる。どちらかを判断するにはより広い文脈が必要であるが、それが与えられたとしても、どちらの価値かという限定的な判断をしなければ解釈上、何らかの支障をきたすようなことは起こらないであろう。

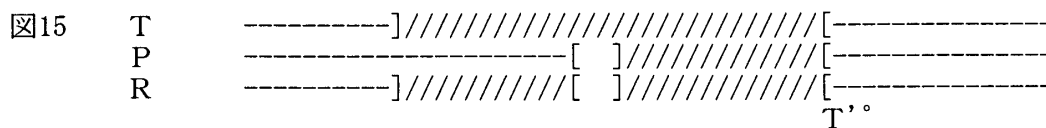
次の例は、時況節の価値が「状態」で、その枠内で別の事柄が生起し、それが現在におよぶ「結果状態」を表す場合である。

(20) *Depuis que je suis vieux, ma vue a baissé.* (France. Etui 33, in Sandfeld, p.283)



図式では、(19)の場合と同じ理由から、主節の開始を示す左境界を時況節の「状態」の開始の直後のようには示さなかった。なお、この組み合わせには主節の複合過去形が否定形におかれたものが多い。次はその例である。

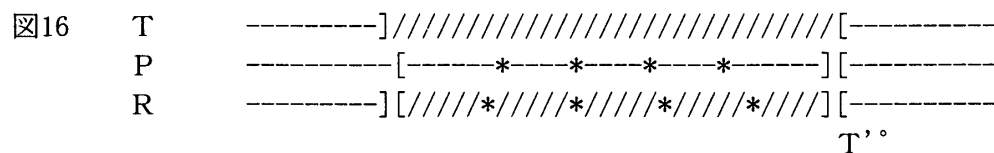
(21) *Depuis que sont faites des observations météorologiques, on n'a décelé aucune variation sensible dans les conditions naturelles;* (Maurain, Ch., *La Météorologie, 1950, p.174, in Frantext*)



主節では、*déceler*という行為が生起していない「状態」が表されている。他の否定の例もこのタイプのものばかりである。

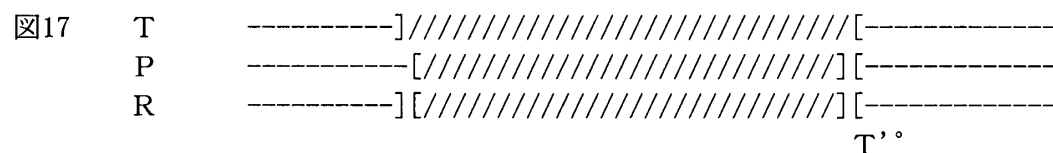
次は、時況節が「状態」を表し、主節の事柄はその枠のなかでくり返し起こった「反復イベント」を表すという関係である。

(22) - *depuis que je suis enfant, j'ai essayé bien des fois de saisir le moment où j'allais tomber dans le sommeil, où je pouvais me dire : "je m'endors. ...* (Green, J., *Journal*, t. 5, 1950, p.77, *in ibid.*)



次の例は、時況節の価値が「状態」で主節のそれが「イベント」である点は上の(20)や(21)と同じであるが、発話全体の意味を考えると別の関係を表していると考えられる。

(23) *Depuis que Paris est repris, dix semaines se sont écoulées.* (Gaulle, Ch. De, *Mémoires de Guerre : Le Sault*, 1959, p.41, *in ibid.*)



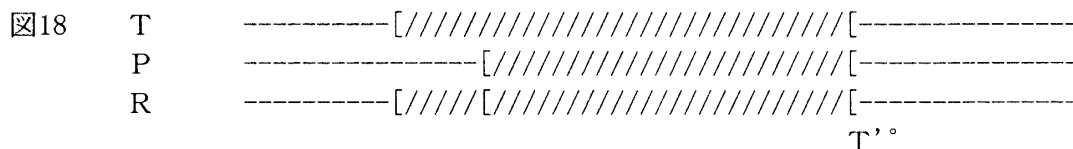
時況節の現在形は受動態である。例の引用範囲の中では*reprendre*という「イベント」そのものが起こったことは明記されていないものの、意味している「状態」は、その「イベント」の後に生じた「結果状態」であり、それは発話時にもおよぶ「状態」ということである。そして、主節の複合過去形は、その「結果状態」の時空間全体をカバーする範囲で、*s'écouler*という「イベント」が包括的に生起したと読み取れる。したがって、図13などのように主節の「イベント」の生起を「状態」の内部に位置づけるよりも、図17のような図式の方が正確に関係を表していると考えられる。後の文脈によっては主節の複合過去形を「結果状態」と解釈する方がより自然という可能性ももちろんあるが、一旦、ここで何らかのポーズがあるならば、包括的な「イベント」と解釈する方が自然であろう。

2.2.3. depuis que PR, PR

この節順および時称形の発話に観察された関係は2.1.3.と同様であった。すなわち、時況節と主節の価値は、二つとも「プロセス」あるいは「状態」、一方が「プロセス」で他方が「状態」、一方が「現在の習慣」で他方が「プロセス」である。節どうしの価値関係も、基本的に2.1.3. でみたものと変わりはないが、時況節が前置されている場合は、主節の事柄の開始が時況節のその直後という程時間的に密接したことを表してはいないと解釈できる点が、後置の場合のほぼ同時と解釈できる点との差である。発話例と図式をあげておく。

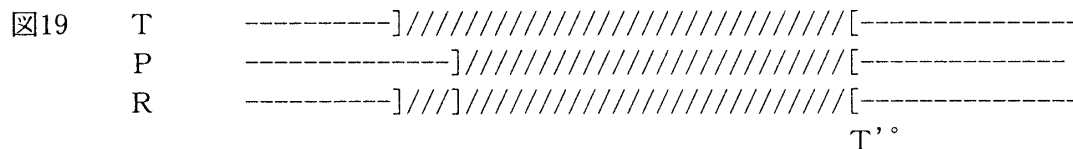
主節と時況節がともに「プロセス」

(24) *Depuis que la représentation ne nous aveugle plus (...) nous commençons à deviner que la représentation est un moyen de style, non le style un moyen de la représentation.* (Malraux, A., *Les Voix du Silence*, p.331, in *ibid.*)



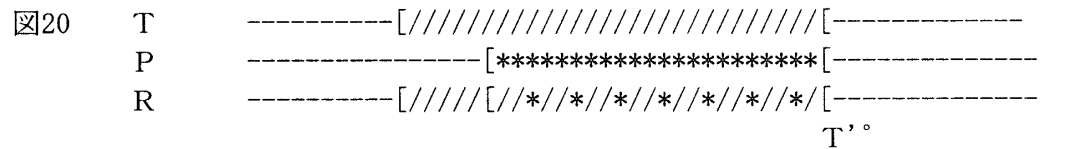
主節と時況節がともに「状態」

(25) *Depuis que je suis étudiant, j'ai envie de poser les questions du départ.* (*Entretiens avec Le Monde*, t. 1, p.47)



主節が「プロセス」で時況節が「現在の習慣」

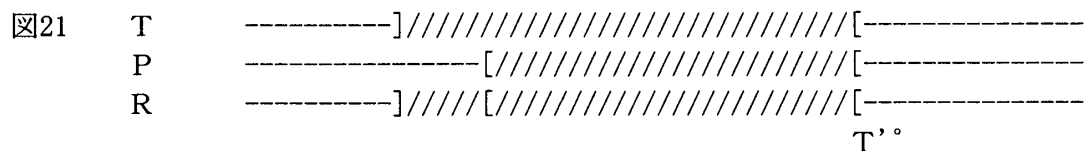
(26) *Il regarda autour de lui en souriant : depuis que j'habite ici, il arrive de drôles de choses.* (Beauvoir, S. De, *Les Mandarins*, 1954, p.326, in *Frantext*)



主節が「状態」で時況節が「プロセス」

(27) *Il est remarquable de constater, d'ailleurs, que, depuis que les femmes ont le*

droit de vote, les municipalités, soucieuses d'avoir des électrices conscientes de leurs responsabilités de femmes, n'hésitent pas à financer l'installation de salles ménagères. (Mathiot, G., *Comment Enseigner L'éduc. Men.*, 1957, p. 71, *in ibid.*)



3. maintenant que

3.1. 時況節後置の場合

3.1.1. PR maintenant que PC

このタイプの発話は二例しか収集できていない。主節の価値が「プロセス」か「状態」⁴⁾で、時況節のそれが「結果状態」という組み合わせである。

(28) tu ne *crains* pas qu'ils enfuient, *maintenant qu'ils ont pris* le goût du sang?
(Bataille, M., *L'Arbre de Noël*, 1967, p.261, *in ibid.*)

この関係をインタビューで表そうとすると、2.1.2.の図5のようになる。depuis queとくらべて、時況節の事柄が生じた時と主節の事柄が開始した時とが密着しているとは解釈しにくい。主節の事柄を、それが生じた背景にある「イヴェント」とその「結果状態」のなかに位置づける役割を時況節は果たしている。

(29) Je ne *veux* pas m'en servir *maintenant que* les diables y *ont touché*. (Camus, A., *Les Esprits, Adaptation*, 1953, p.480, *in ibid.*)

この例は2.1.2.の図7のように表すことができる。時・アスペクト関係についても(8)と同様である。

3.1.2. PR maintenant que PR

この組み合わせで観察できた関係をdepuis queとくらべると、一方に「現在の習慣」と解釈できる場合が無いほかは、depuis queを含む発話において観察できたものとほぼ同じなので、例をあげるにとどめる。

主節と時況節がともに「プロセス」

(30) -tant la course *enrichit* le risque, *maintenant que brûle* notre château de gourdon. (Char, R., *Fenêtres Dormantes...*, 1979, p.618, *in ibid.*)

主節と時況節がともに「状態」

(31) Quant à "en sortir", (ce qui n'a plus rien d'urgent, *maintenant que* les hostilités

sont terminées partout et que nous avons toute liberté en toutes matières), ce ne doit pas être à nos frais. (Gaulle, Ch. De, *Mémoires de Guerre : Le Salut*, 1959, p.558, *in ibid.*)

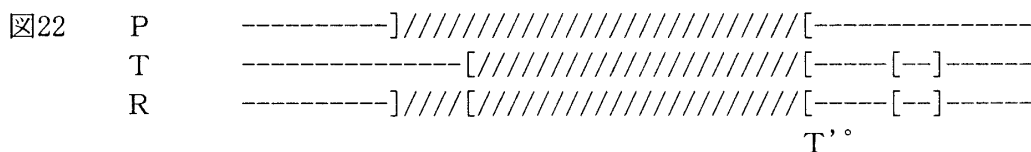
主節が「プロセス」で時況節が「状態」、あるいは主節が「状態」で時況節が「プロセス」

(32) Le * * vaut, par exemple, 45 f en France et 55 f en Allemagne, ce qui *revêt* une certaine importance *maintenant que* les droits de douane ne *peuvent* plus compenser ces différences de prix de revient. (*Industrie Franc. du Caouchouc*, 1965, p.14, *in ibid.*)

(33) Ce garçon, il apportait le vent, je vous jure que c'est vrai et j'*ai* pas intérêt à mentir *maintenant qu'on* m'*attend* à l'écurie. (Pilhes, R.-V., *La Rhubarbe*, 1965, p.133, *in ibid.*)

ただし、*maintenant que*を含む発話には、*aller* + 不定法の形式で表された「プロセス」がみられる点が*depuis que*と異なる。

(34) Comment *puis-je* être heureuse *maintenant que* tu *vas partir*? (Camus, A., *Les Esprits Adaptation.*, 1957, p.798, *in ibid.*)



インターヴァル図式で語彙的意味の差異を表すことは難しいので、時・アスペクト関係を表すと*depuis que*と同じような図式になってしまうが、*maintenant*は*depuis*と異なり、それ自身が起点を表す意味はもたない。以前と対比的な現在を表し、むしろそれ以降の未来の方向性を示す意味をもつので、もっぱらこのタイプの関係を表すには*maintenant que*が用いられるという役割分担がみられるのは自然であろう。

3.2. 時況節前置の場合

3.2.1. *maintenant que* PC, PR

この組み合わせにみられる複合過去形の価値は、2.2.1.の*depuis que*の場合と同じで、すべて「結果状態」であった。主節の現在形の価値が「状態」のものからみていく。

(35) *Maintenant que* vous *êtes arrivé*, je *suis* bien contente... (Vrigny, R., *La Nuit de Mougins*, 1963, p.95, *in ibid.*)

満足しているという主節の「状態」の開始が、到着という事柄の開始直後であると解釈す

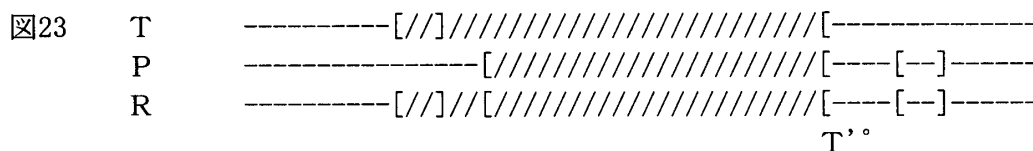
る必要はないであろう。到着前と異なる到着後の今においては、という読み取りで十分であろう。このような差異をインターヴァル図式で表すことは難しい。今のところ時・アスペクト関係については図11と同じ図式をあてる。

次の例は主節の現在形の価値が「プロセス」の例である。

(36) *Maintenant qu'il a rempli sa mission, nous attendons essentiellement de lui qu'il s'en aille sans retard pour nous laisser jouer à notre tour.* (Bataille, M., *L'Arbre de Noël*, 1967, p.186, *in ibid.*)

(35)と同じように、これも2.2.1. でみた*depuis que*の図10で関係を表すことができる。*depuis que*と異なるのは、次の(37)のように主節の動詞が *aller*+不定法の形式で表された「プロセス」を表すものがあることである。

(37) *En tout cas maintenant que je t'ai pris ce rendez-vous, tu vas y aller?*
(Beauvoir, S. De, *Les Mandarins*, 1954, p.138, *in ibid.*)

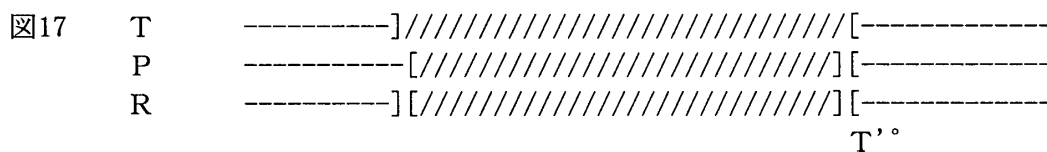


3.2.2. *maintenant que* PR, PC

この組み合わせの発話は今のところ下の一例しか収集できていない。

(38) *Et cependant ... maintenant que vous êtes en règle avec Dieu, avec chacun de nous, et avec vous-même, le temps est peut-être venu que je vous dise un mot de moi.* (Monterlant, H. De, *La Ville et le Prince ...*, 1951, p. 936, *in ibid.*)

この発話の時況節と主節との関係は、2.2.2. の(23)でみた*depuis que*のように、主節の複合過去形の価値は「イベント」で、それは時況節が表す「状態」に包括的に関わっているものと解釈できる。もちろん、このような狭い文脈のなかで、複合過去形を「結果状態」と解釈する可能性は否定できないが、時況節は発話全体の時間的枠組みとしての今を表し、その枠のなかの事柄を主節は表しているのだから、「包括的イベント」と読み取る方が自然と考えられる。



3.2.3. maintenant que PR, PR

このタイプにおいて観察できた節どうしの関係は、2.2.3. でみた *depuis que* と同様に、時称形の価値の両方が「プロセス」あるいは「状態」、一方が「プロセス」で他方が「状態」の四種類である。*maintenant que* 節の現在形の価値が「プロセス」のときは事柄の起点も表しているが、*depuis que* 程その起点の意味が強くない点は、3.2.1. と同様である。節どうしの関係を表す図式についても、同じ理由から図18、図19、図21などをあてることにし、例のみをあげる。

時況節と主節がともに「プロセス」

(39) *Maintenant que le déshumidificateur fonctionne, nous nous sentons de taille à passer ici le restant de la semaine.* (*Science et Vie*, n° 594, p.90, in Robert életronique)

時況節と主節がともに「状態」

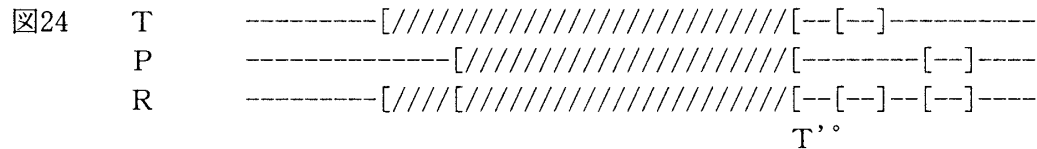
(40) *-et maintenant que je suis au troisième tiers, je suis trop fatigué pour me lancer dans l'aventure.* (T'serstevens, A., *L'itinéraire Espagnol*, 1963, p.268, in Frantext)

主節が「状態」で時況節が「プロセス」

(41) *Maintenant que la guerre est finie elle espère retrouver le passé.* (Beauvoir, S. De, *Les Mandarins*, 1954, p.32, in *ibid.*)

また、この組み合わせにも、時況節と主節の両方の事柄が *aller* + 不定法の形式で表されているものがある。例とその図式は以下である。

(42) *Tenez, maintenant que vous allez me parler de vous, je vais savoir si l'un des buts de ma passionnante confession est atteint.* (Camus, A., *La Chute*, 1956, p.1548, in *ibid.*)



4. *depuis que* と *maintenant que* との比較

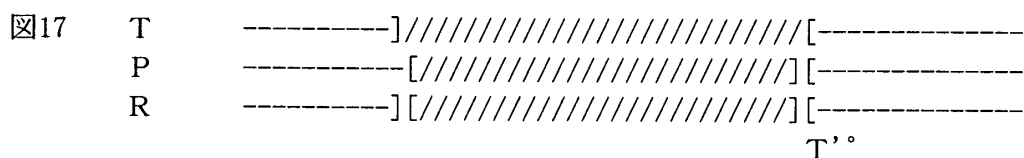
時況節を導く接続詞の意味を、主節と先行・同時・後行という時間的観点からみると、この二つは主節と同時の関係を表す接続詞である。また、関係辞の語彙的意味から、ともに *déictique* な性質をもち、現在の時空間を表す発話に読み取れる関係も類似したものがほとんどであった。インタビュー図式では同じ関係を表すことになる場合も、解釈の点からは、*depuis que* には一方の事柄の起点がより明確に読み取れる関係を表すのに対し、

*maintenant que*が表すそれは間接的にしか読み取れない。また、*maintenant que*の場合に、発話時以降にもおよぶ事柄を明示する表現形式 *aller* + 不定法が観察できることは、接続詞による表現の役割分担がなされていることを示す。これらの事実から、発話者は表現意図によって接続詞を使い分けしていると推定できる。

この二つの接続詞が含まれる発話に共通して観察できた複合過去形の価値について、興味深いものがあった。それは、前置時況節の動詞が現在形におかれていて、主節に複合過去形が登場する場合である。再び例と図式をみてみよう。

(23) *Depuis que Paris est repris, dix semaines se sont écoulées.* (Gaulle, Ch. De, *Mémoires de Guerre : Le Sault*, 1959, p.41, *in ibid.*)

(38) *Et cependant ... maintenant que vous êtes en règle avec Dieu, avec chacun de nous, et avec vous-même, le temps est peut-être venu que je vous dise un mot de moi.* (Monterlant, H. De, *La Ville et le Prince ...*, 1951, p.936, *in ibid.*)



これらの複合過去形のもつ「イベント」の価値は、提示された時空間全体を包括的にカバーするものである。このような例は、今のところ多くは収集できていない。次の例も、同類とみなすことができるかも知れない。

(43) *Depuis que ce cas existe, l'opinion a eu le temps de s'y habituer.* (Hervieu. *Théâtre III* 29, *in Sandfeld*, p.283)

このタイプの複合過去形の価値については、先行研究での指摘をふまえながら小石 (1984, p.11) が次のように言及している⁵⁾。

(44) *La pluie a bien arrosé le jardin depuis trois jours.*

(中略)

(44)で発話時点Sにおいてまだ雨が降っているかという疑問には、《*on ne sait pas s'il pleut mais, en principe, il pleut.*》という総てのインフォーマントの答えであり、これは次の例(45)に対してStenの言うところと軌を一にする。(*depuis que*の例であるが原則は変わらない。)

(45) *j'ai pleuré, depuis que nous sommes venus ici.*

この文に対し彼は、《*Il n'est pas défendu de penser que les larmes continuent à couler, mais c'est le passé qu'on a en vue.*》と言っている。以上のことから、PCの文

では原則としてSの時点で事行は継続しているが、継続していない可能性もあるということができる。

このSの時点での事行の継続は、ある事柄が完了し、その結果の状態が継続しているわけではないという点に注目し、小石はこれを*depuis +X*《期間》修飾型と呼んでいる。そして、次の例（小石 1984, p.13）なども同じような用法ではないかと述べている。

(46) *Depuis deux ans, on nous a répété que les radios libres étaient la créativité incarnée,...*

(47) Ensemble, *depuis six ans, nous avons maintenu* Paris tel que les siècles nous l'ont légué.

小石があげている例の解釈については、引用しなかった他の例も含めて、すべて筆者のそれと一致するものではない。いずれも、文脈が狭いので判断は難しいが、たとえば(46)の複合過去形の価値は「反復イベント」であるから、*depuis+X*が提示している時空間全体に複数生起の「イベント」が生じたということなので、2.2.2. でみた(22)に該当するものではないかと考えられる。「反復イベント」全体が提示された時間的枠組みにおよぶという点では同類とみなすことはできるが、この関係は(4)のように時況節が後置されている場合にも観察できる。また、(47)は上の(23)や(38)と同様に、ある時空間全体にわたって一つの「イベント」が包括的に起こったと解釈でき、このタイプと「反復イベント」とは別のものとして扱うべきではないかと考えられる。

示された時空間全体に対する包括的な一つの「イベント」の生起を意味する複合過去形の価値は、この時称形が*depuis+X*と組み合わせざったとき、それが複合過去形に付与することによって生じるものだというのが小石の主張である。しかし、(38)をみると、そのような価値が生じる条件として、必ずしも*depuis+X*との組み合わせだけに限るわけではない可能性がある。仮にこの価値を「包括的イベント」と呼ぶとして、それが読み取れる条件には、複合過去形の登場以前に時空間を提示する表現があることと、複合過去形におかれた動詞がその文脈では一回だけ生起したと解釈できるものであるという二つが必要なのではないかと考えられる。後者の条件については、少なくとも動詞の主語や目的語の限定辞などと動詞の語彙的意味との組み合わせとが関与していると考えられる。

5. おわりに

二つの接続詞を含む発話で、動詞時称形の組み合わせが同じタイプからなる発話を検討してきたが、小石の指摘にあったような複合過去形の価値、「包括的イベント」と判断で

きるような複合過去形の例は、*depuis*に限るものではないのではないかという新たな疑問が湧く。*depuis*に関する先行研究では、この関係辞が構成する副詞句の発話中の位置に関連する問題はあまり取り上げられていない。しかし、包括的に何かを捉えるには、まず、ある枠組みが提示されてこそ可能なのだから、前置の副詞句はこのような複合過去形の価値に関わっているであろうという点は今後の研究の手がかりになる。

今回は節表現の発話を中心にみたわけだが、関係辞と名詞や名詞グループという形式の副詞句を含む発話においても、このような複合過去形の例を見いだすことはできると推測できる。一般に、複文にくらべて句表現の方が生起頻度は高いので、より多くの例を収集し分析することは可能である。また、適用認知文法のモデルでも、このタイプの複合過去形の価値についてはまだ十分に検討されていないので、このモデルの時・アスペクト分野の研究の発展にも貢献できる課題である。

他にも、否定表現に関わる問題など、本稿で触れることができなかった点が多い。それらは今後の課題としたい。

注

- 1) 適用認知文法 (*Grammaire Applicative & Cognitive*) のモデルの概要および時称形の価値の主なものについては阪上(1998)で紹介した。また、複文に関する図式の方法の一部についても阪上(1999)で簡略化した表記を示したので、今回もそれに準じた表記を採用する。価値のラベル的名称についても同様に「 」を用いて表す。
- 2) 本稿で主節と呼ぶのは、必ずしも発話全体の主節を指すわけではない。煩雑になることを避けるため、時況節が直接依存している節を主節と呼ぶことにする。また、接続詞および問題となる時称形のイタリック体表記は筆者による。
- 3) 否定形の動詞の価値解釈については問題が多いが、本稿では、文脈上、動詞事行の生起の有無を問わないと意味がとれない場合以外は、「否定的な習慣」や「否定的な状態」を表すものと解釈することにする。
- 4) 例の(29)のように不定法を従え助動詞の役割をする *vouloir, pouvoir, devoir, etc.* などの価値は「プロセス」と解釈できる場合もあるが、この種の動詞が表すモダリティの問題とも関わるので、今のところ適用認知文法のモデルでは、「状態」というデフォルト値を与えることにしている。
- 5) 以下、小石からの引用例の番号は、筆者が便宜上付け直したものである。なお、発話例中のイタリック体表記は小石による。

主要参考文献

- Arrivé, M. et al. (1986) : *La grammaire d'aujourd'hui*, Flammarion, Paris.
- Desclés, J.-P. (1980) : "Construction formelle de la catégorie grammaticale de l'aspect (essai)", en collaboration avec Z. Guentchéva, in *Notion d'aspect*, pp. 198-227, J. David & R. Martin (éds), Klincksieck, Paris.
- Desclés, J.-P. (1989) : "The concepts of the state, process, event and topology", *General Linguistics*, Vol. 29, No. 3, pp. 159-200, The Pennsylvania State University, Press, University Park and London.
- L'Huillier, M. (1999) : "Les « temps » après depuis (que), il y a ... que, voilà ... que : problèmes pour l'apprenant", in *L'information grammaticale*, No 80, pp. 3-7.
- Koishi, A. (1986) : *Détermination temporelle et aspectuelle dans des phrases contenant un adverbial de temps - quelques considérations sur "depuis"-*, Thèse de doctrat, Université Paris VIII, Paris.
- Sandfeld, K. (1965) : *Syntaxe du français contemporain, les propositions subordonnées*, Droz, Genève.
- Sakagami, R. (1997) : *Fonctionnement de quelques connecteurs temporels en français : représentation de relations aspecto-temporelles inter-propositionnelles en vue d'un traitement informatique*, Thèse de doctrat, Université Paris IV, Paris.
- Wagner, R.-L. et Pinchon, J. (1962) : *Grammaire du français classique et moderne*, Hachette, Paris.
- 小石篤子 (1984) : 「DEPUIS 《déictique》の分析」、『フランス語学研究』18号、日本フランス語学研究会、pp.1-19.
- 小石篤子 (1986) : 「《Depuis》を含む現在形否定文の問題—「DEPUIS 《déictique》の分析」追記—」、『フランス語学研究』20号、日本フランス語学研究会、pp.44-52.
- 阪上り子 (1993) : 「時間的状況補語節の位置と機能」、『年報フランス研究』27号、関西学院大学フランス学会、pp.55-64.
- 阪上り子 (1998) : 「J.-P. DESCLESの文法モデル」、『フランス語学研究』32号、日本フランス語学研究会、pp.52-58.
- 阪上り子 (1999) : 「時況節を含む発話における節間の時・アスペクト関係」、『フランス語学研究』33号、日本フランス語学研究会、pp.27-39.
- 佐藤正明 (2001) : 「反復の複合過去と期間表現depuis...—無限定的用法の一形態—」、『福岡大学研究部論集』A1巻、2号、福岡大学研究推進部、pp.19-30.
- 佐藤正明 (2002) : 「否定の複合過去と期間表現depuis...」、『福岡大学研究部論集』A2巻、

- 1号、福岡大学研究推進部、pp.1-18.
- 曾我祐典 (1992) : 『フランス語における状況の表現法—構文・動詞叙法の選択—』白水社
- 春木仁孝 (2001 a) : 「テキスト構成とテンス・アスペクト」、『ガリア』XL、大阪大学フランス語フランス文学会、pp.11-18.
- 春木仁孝 (2001 b) : 「Mourirの時制—「語り」における複合過去の機能—」、『言語共同プロジェクト2000:現代フランス語のテンス・アスペクト・モダリティー』、大阪大学フランス語フランス文学会、pp.1-14.